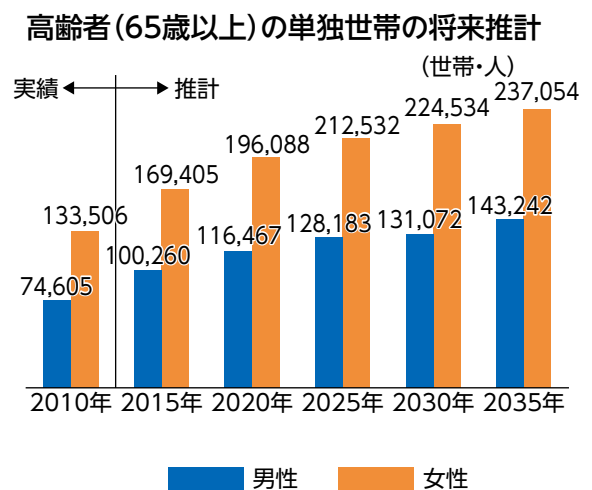
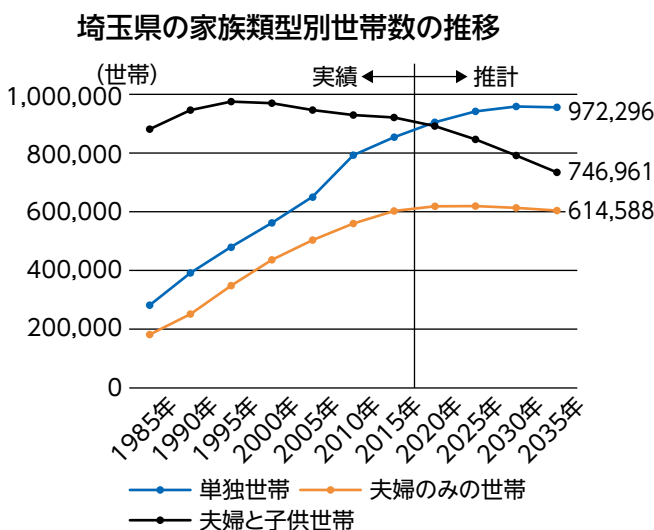
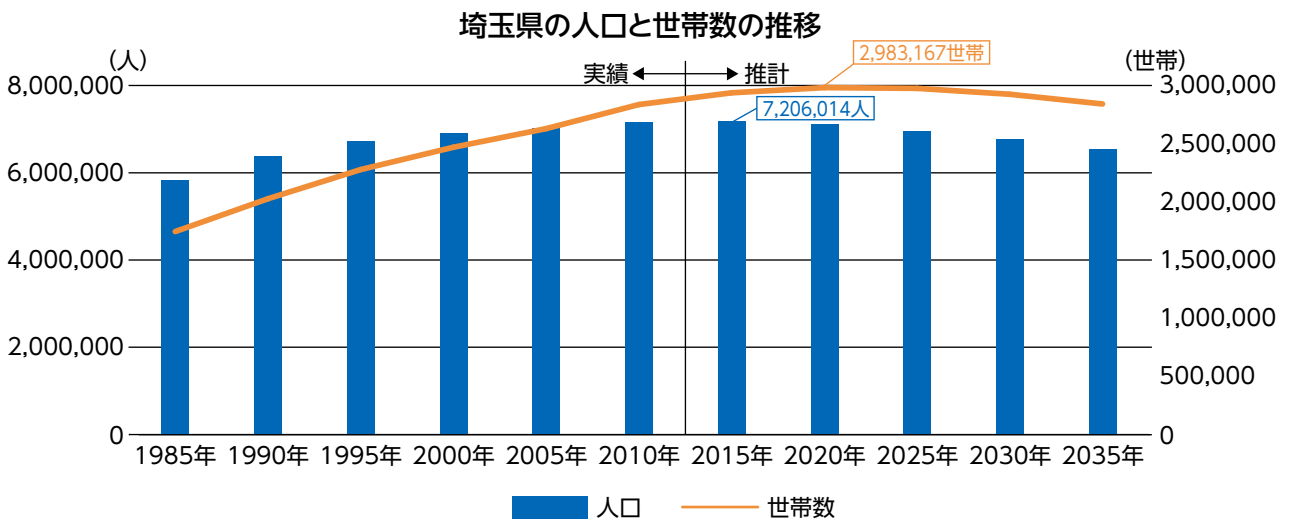


増加する高齢者単独世帯 ～人口減少でも世帯数は増加～



出所：国勢調査（総理府統計局）、日本の将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると日本の総人口は2010年の1億2,806万人をピークに減少し、2048年には1億人を割るとされています。一方で世帯数は2019年まで増加し、同年5,307万世帯をピークに減少するとされています。“人口が減少するのに、世帯数が増加する”現象が発生しています。その要因として考えられるのが、一人住みの単独世帯が増加していることです。

では埼玉県の状態を見てみましょう。埼玉県では人口のピークは2015年の720.6万人でその後減少となります。一方、世帯数は既に人口減少に入った2015年の後も増加を続け2020年の298.3万世帯でピークを迎えることとなります。

次に家族類型別の世帯数を見ますと、2015年では夫婦と子供世帯が最も多いのですが、急増を続けていた単独世帯が夫婦と子供世帯を追い抜き、近々家族類型別で最も多くなることとなります。単独世帯は2035年には97.3万世帯で、県内全世帯の3分の1を超え、34.2%に達します。中でも注目すべきは、65歳以上の単独世帯の増加です。2010年では、男性が74,605世帯（人）、女性が133,506世帯（人）で208,111世帯（人）です。2035年には男性が1.92倍の143,242世帯（人）、女性が1.78倍の237,054世帯（人）となることと推計されています。